

都 退 教 協 だ よ り

No. 279号

2017年8月16日発行

東京都退職教職員協議会 会長 柴田 迪春

〒101-0003 千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 2F 東京教組内

☎:03-5276-1311 FAX:03-5276-1312 Mail:totaikyokyo@tokyokyouso.org

憲法改悪阻止・共謀罪廃止、安心・安全な社会の 実現！をめざして第42回定期総会開かれる！

都議会議員選挙直後の7月12日（水）午後2時より、都退教協定期総会が会員20名の参加で開催されました。

佐久間忠夫議長の進行のもと、柴田会長挨拶、ご来賓挨拶のあと、の経過報告、決算、活動方針、予算が決定されました。

都議会議員選挙は、東京教組組織内候補のあべ祐美子さん（品川選挙区）が会員の方のご支援を受けながら惜敗してしまいました。小池知事与党の都民ファースト、公明党が圧勝する結果になりました。討論では、小池知事が改憲派であり、大阪維新の会の政治手法と酷似していることなどから公務員の処遇や憲法改悪などへの影響を心配する意見や、

戦争法に引き続き共謀罪反対の集会に数多く参加したこと、安倍政権の改憲の動きを危惧する声が数多く出されました。

総会は、2017年度の役員を選出し、城田常任委員による総会宣言を満場一致で採択して

成功裏に終了しました。総会后、恒例の懇親会にも多くの皆さんが参加してくれました。



総会宣言

今から70年前、日本国憲法が施行されました。戦後の廃墟の中に一条の光が差し込みました。もう戦争はしないのだ。戦争放棄を謳った日本国憲法が誕生したのです。憲法9条だけでなく、国民主権を保障した前文、表現の自由を保障した21条その他の条文も打ちひしがれた国民の心には多くの勇気を与えたものでした。そして、国民の多くはその憲法を大事に守ってきたのです。

ところが安倍自公政権は「戦後レジウムからの脱却」と称して数々の悪行を重ねてきました。第1次安倍政権は2007年の「教育基

本法の改悪」を強行し、第2次安倍政権では「特定機密保護法」、「戦争法」、今年6月の共謀罪と同趣旨の「テロ等準備罪」等、多くの国民の反対を無視して強行採決を繰り返し、新たな戦前を思わせる状況を作り上げてきました。

今回の「共謀法」をめぐる国会の中で明らかになったことがあります。大阪の森友学園をめぐる疑惑、愛媛県今治市の加計学園の獣医学部新設問題での疑惑を追求する過程で安倍政権の「進むべき道」がいったいどの様なものであったのか、正体が暴かれたのではな

いでしょうか。

何よりも平和に生きたいと願う沖縄県民の願いを聞き入れず、沖縄県名護市辺野古に作られようとしている新基地建設反対運動に対しては、非暴力の市民に対して警察機動隊が暴力的に襲いかかり、反対派リーダーである山城博治氏を5ヶ月もの長期間、拘留するなどの「反対運動への強権発動」をしておきながら、一方森友学園や加計学園等に見られるように「お友達への便宜と利益供与」と言ったその腐敗ぶりたるや史上稀に見るものです。

今月2日に行われた都議会議員選挙にて、自民党候補は歴史的な大敗北をしました。小池都知事率いる都民ファーストの会とそれを支持する公明党等を合わせると過半数を占めます。残念ながら私たちの押した都政連の候補は当選とはなりませんでしたが、安倍を取り巻く国会議員の暴言や失言、不祥事等々に対する都民の怒りのマグマが爆発したのでしょうか。

但し、都民ファーストの会の小池都知事は代表を退いたとはいえ、日本会議の議員懇談会の副会長であることは事実であり、後任の代表である野田数(かずさ)氏は、保守党や自民党や維新の会等の政党の市議や都議を務めて来た人物です。しかも都議時代には都立高校の歴史教科書から南京大虐殺を削除するよ

う圧力をかけたり、WiLL(ワック)などの右派雑誌に寄稿し「日本の戦争は侵略ではなく、自衛のための戦争だった」との趣旨の主張したり、現行の日本国憲法を無効とし、「大日本帝国憲法の復活」を求める請願をしたりする人物です。今は「改革派」のようにみられています。都民ファーストの会の化けの皮を剥がすのも私たちの運動の重要な責務です。

現在、教職員は多忙化する諸課題への対応や業務量の増大から、無制限・無定量な長時間労働を強いられています。慢性化した教職員の長時間労働を是正し、ワーク・ライフ・バランスの実現をはかることは喫緊の課題です。

本日私たちは会員相互の真摯な討論を重ね、2017年度の活動方針を決定しました。当面する政治課題と組織拡大を実現し、高齢者が安心して暮らせる社会保障制度の改善要求や脱原発の戦いに全力で取り組みます。また、来年の衆議院選挙に向けて、日政連議員当選を勝ち取り、さらには自公政権に明確に反対する政治勢力の結集のために全力を尽くします。

以上宣言します。

2017年7月12日

東京都退職教職員協議会 第43回定期総会

2017年度 都退教協役員

会 長	柴田 迪春	常任委員	祝迫 規之
副 会 長	安部 東明	〃	名谷 和子
〃	川角 恒	〃	城田 純生
事務局長	谷口 滋	〃	藤崎 喜仁
会 計	安藤 隆	〃	小倉 武
〃	遠藤 宏一	顧 問	秋元 松彦
		会計監査	長谷川和男
		〃	矢口 信

東京都退職教職員 囲碁 大会報告

都退教協第43回定期大会の翌々日、7月14日（金）午前10時から、空梅雨の暑い中「東京都教職員互助会・ナーベルお茶の水」で、例年よりも2ヶ月早く、東京都退職教職員囲碁大会を開催いたしました。

参加者は、Aクラスに菊岡伸一氏1名、Bクラス8名。Cクラス3名でしたが、人数の関係で私もCクラスに参加することにし、4名で開始しました。

Aクラスの菊岡氏には、しばらく様子を見ていただくことになり、Bクラス、Cクラスから対局を始めました。

ルールでは、Bクラスは対局時計を使うことになっていますが、対局者同士の話し合いで対局時計を使うかどうか決めていただきました。多少時間のかかった対局もありましたが午後3時にはリーグ戦の全てを終了することができました。

Aクラスの参加者は菊岡氏のみで、正式な対戦ははななく申しわけありませんでした。Bクラスは8人でしたので3回戦で順位が決まり、Cクラスは2回戦で順位が決まりました。



都退教協の会員の参加者は、Aクラスに菊岡伸一氏、Bクラスに及川輝治氏、安部東明氏、谷透氏の3名、Cクラスに谷口滋氏、遠藤宏一の2名で計6名でした。Aクラスの参加者が、2年連続で菊岡氏1名のみで、対局が成立せず残念でなりません。

Aクラス（五段以上）の方でもっと多くの参加者が出ることを願望してやみません。暑い中でも参加いただきました会員の皆様、ありがとうございました。

（遠藤宏一記）

9. 14 全国高齢者集会

日時：9月14日（木）13:00～16:30

場所：文京シビックホール（後樂園駅・春日駅直結）（文京区春日1-16-21 2F）

主催：日本退職者連合 内容：全体集会、デモ行進（水道橋駅周辺まで）

9. 15 地方公務員退職者協議会高齢者集会

日時：9月15日（金）13:30～16:30

場所：日本教育会館3F 一ツ橋ホール（千代田区一ツ橋2-6-2・神保町A2出口から5分）

主催：日教組、自治労、全水道、地公退 内容：全体集会、基調提案、講演

「浅草皮革産業の祖・弾直樹」

稲川實さん（皮革産業資料館副館長）の講演から

東京部落解放研究所主催の学習会で、稲川稔さんから「浅草皮革産業の祖・弾直樹」のお話を伺い、柴田がまとめてみました。

現在都立浅草高校が建っている辺りが、かつての長吏頭・弾左衛門屋敷の跡地です。

稲川さんは1947年に靴製造に携わり、東京靴組合専務理事などを経て、現職に至っています。今、台東区内の各小中学校の子どもたちに、「出前」を含め、図工の時間に革製品を作るような授業を行っています。

—————*—————

革靴は、今たいていの人が履いています。草履や下駄で日常生活している人でも、一度くらいは履いたことがあるでしょう。この靴が、いつごろから履くようになったのか、またどのようにして作られたのか、私自身はかなり以前から、興味と関心を持っていました。それと言うのも、父が「靴・鞣の材料」である各種皮革の卸販売の仕事をしていたからです。下谷にあった我が家の玄関隣の一室は、様々な皮でいっぱいでした。物心ついた時からそれを身近に見ながら育ちました。また幼い時から革製の自分用の靴があって、ごく自然に履いていました。

「いつごろから靴を・・・」という話ですが、教科書にも載っている幕末に登場する坂本龍馬の写真には、靴を履いた姿が映っています。むろんその靴は、外国製であったろうと思いますが、国内ではいつごろから、どのようにして「靴造り」が始められたのか、について、これまで断片的には聞いていたものの、具体的にはほとんど知りませんでした。何事も、「初めて」やるのには、様々な試行錯誤が伴い、「失敗の繰り返し」は当たり前と聞いています。日本における「靴造りの先駆者」の一人が、幕末まで長吏頭であった弾左衛門であることは、お話や本を通していくらかは知っていました。

それでは、「浅草皮革産業の祖・弾直樹」についてお話しします。

<十三代 弾左衛門(直樹)の軌跡>

◎1868（明治元）年、

1月27日、第13代長吏頭・弾左衛門（1823～1889）は、弾内記と改名しました。

◎1870（明治3）年、

9月17日、弾は王子滝野川にあった「反射炉（鉄鋼の溶鉱炉）」跡地を借り受け、兵部省から受けた「皮革製造御用達」により、皮革製造所を建設します。12月13日内記は直樹に。

◎1871（明治4）年、

3月28日、弾はアメリカから、製革技師・チャールズ・ヘニングルを招聘すると同時に製革機械を導入し、皮革製造を開始します。これにより、丈夫で柔軟性に富み、撥水性もある皮の鞣しに成功します。この皮は、「茶利革」（チャリ皮）と名付けられ、評判になりました。弾はこれを兵部省に持参して関係者に供覧しました。

11月、旧知である水町久兵衛氏の援助を受け、事業所を「弾・水町組」と改組しました。この年、年間12万足の靴を製造しました。

◎1872（明治5）年、

1月、弾は、大蔵省勸業司所属である、浅草・橋場町の「旧銭座」跡地（現台東区橋場1-1-6・人権啓発センター）の地を借用し、滝野川から工場を移転しました。この際、兵部省武庫司から、以後10年間の軍靴製造を申し付けられました。

◎1874（明治7）年

9月、兵部省の「10か年契約」破棄などで経営が行き詰まり、三井組の援助を受け、会社も「弾・北岡組」と改称しました。

11月15日、軍靴製造を再開します。

「弾・北岡組」の工場が二分されたのはこの年で、製靴部門は弾家の自邸内（現・都立浅草高校の敷地内）に置き、製革部門は地方・橋場1373番地（現・荒川区南千住3丁目・石浜神社の隣接地）としました。この敷地面積は2600坪、資本金は5万円でした。

◎1875（明治8）年

1月、橋場町の土地建物がともに大蔵省から東京府に管轄が移管し、府庁から弾直樹に払下げとなりました。次いで、北岡文平に譲渡されました。こうして、弾直樹の負債も漸次償却の運びとなり、1876（明治9）年12月までに、ほぼ完済となりました。

◎1889（明治22）年

7月9日、弾直樹死去。享年67歳。

次男・祐之助が二代目直樹を名乗り、先代の事業を引き継ぎました。祐之助は優秀な人で、1912（明治44）年、「クロム鞣し」

を始めました。（「祐之助の4男新平の娘を祖母とする人にお会いしたことがあります。」と稲川さんがおっしゃっていました。）

◎1893（明治26）年、

この年、二代目弾直樹は、弾・北岡組を継承し、東京製皮合資会社が設立されます。

◎1902（明治35）年

1月21日、櫻組、大倉組、東京製皮合資会社、福島合名会社の各製靴部を併合して、日本製靴株式会社（現・株式会社リーガルコーポレーション）を設立し、祐之助は監査役になります。

◎1907（明治40）年、

4月、櫻組と合名会社大倉組皮革製造所、東京製皮合資会社、今宮皮革製造所を併合し、日本皮革株式会社（現・株式会社ニッピ）を設立します。

銀座7丁目・すずらん通りの皮革アンテナショップの人は「7代遡れば弾直樹」だそうです。

（柴田迪春 記）

「標的の島-風かたか」上映会にご招待

9月22日（金）18:00～

田町交通会館5F ホール

※招待券を同封しましたので、会場の都退教協受付にご提出下さい。

『標的の村』『戦場ぬ止み』の三上智恵監督の最新作。大学で民俗学も講じる三上監督。エイサー、パーントゥ、アンガマ、豊年祭。先祖から子孫へと連なる太い命の幹、権力を笑い飛ばし、豊穡に歓喜する農民の誇りと反骨精神。島々の自然と歴史が育んだ文化が沖縄のたたかいととも描かれる。

そして、県民大会で古謝美佐子が歌う「童神(わらびがみ)」、辺野古のゲート前にかき鳴らされる三線の音色。

この一年で安全保障政策を大転換したこの国で、平和と民主主義を守る闘いの「最前線」はどこか？ それに気づいた人々が、今、沖縄に集まっている。

「標的の島」とは、沖縄のことではない。それは今あなたが暮らす日本列島のこと。



編集後記

- ◇ 先日の囲碁大会で唯一上級にエントリーした菊岡さんからのご便りです。
「連絡ありがとうございます。都退教協囲碁大会にこのところ出場の機会をいただき、楽しみにしています。また、よろしく願いいたします。菊岡伸一」
- ◇ 沖縄に米軍基地を押し付け、新たに恒久的な新基地を辺野古に作ろうとしている安倍政権。サンゴの海の埋め立てを強行し始めたが、沖縄県民と翁長知事は埋め立て差し止めを求めて提訴した。
8月12日には、「翁長知事を支え、辺野古に新基地を造らせない県民大会」（辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議主催）が那覇の奥武山公園陸上競技場で開かれ、4万5千人が集まった。
東京でも沖縄に連帯する集会在東池袋中央公園（巣鴨プリズン跡地）で開催され、約800人が参加。
都退教協も元気にデモ行進しました。
- ◇ 日退教は、6月9日定期総会で「日退教闘争カンパ」を行うことを決定しました。
安倍政権は「共謀罪」を強行成立させ、いよいよ2020年施行をめざし憲法改悪へ一歩踏み出しました。自民党も「9条に自衛隊明記、教育無償化・緊急事態条項・参議院合区禁止」などを具体的改憲項目として整理し、秋の臨時国会に提示するとしています。都議選の自民党大敗を受け、後退説もありますが、予断は許しません。3分の2の改憲勢力を維持しつつ国会発議を行なうのは来年末までの国会が機会です。すでに日本会議を中心にする改憲団体は、国民投票に備え、一千万署名を進めています。平和・人権・民主主義を守る私たちのたたかいは正念場を迎えています。
沖縄では前述のよう護岸建設工事を強行し、「本土を含め2065万立米」の土砂を運び込む埋め立て工事を始めました。また、全国各地の基地へのオスプレイ飛行反対の行動も行われています。たたかいは全土に広がりつつあります。安倍政権は、原発エネルギーを安全保障政策にも位置づけ、原発再稼働・輸出を進めています。
福島原発事故では、いまだ、約12万もの人が避難生活を余儀なくされ、自宅に戻れずにいるのに安倍政権は、「復興」を印象付けようと避難指示解除を無理やり進めています。日本全体を危機に陥れる原発、核燃料処理施設などを廃棄させ、脱原発社会を実現しなければなりません。
こうした諸闘争を始め、山積する課題を一層進めるため、日退教「日退教闘争カンパ」にご協力をお願いいたします。細る年金からの出費で恐縮ですが、よろしく願いいたします。
- ◇ 今年度の会費（年間2,000円）をまだ納入していない会員の皆様、会費納入にご協力下さい。郵便振替用紙を同封いたしましたので、「日退教闘争カンパ」へのご協力も合わせてよろしく願い致します。
- ◇ 「標的の島-風かたか」上映会(9/22 東京教組主催)に都退教協の会員の皆様をご招待します。詳しくは、前ページをご覧ください。



(谷口記)